

第4期高知県がん対策推進計画の中間評価について

令和8年度は、現計画の中間年度であるため、進捗状況の把握及び評価を行うとともに改めて課題を把握し、目標の達成へと繋げる。

◎ 計画の進捗状況の評価について

計画の進捗状況を分かりやすく評価するため、下記のとおり「A」から「D」の評価基準を定めた。

区分	進捗度評価の基準
A	基準値に対し、改善傾向にある
B	基準値から変化なし
C	基準値に対し、後退傾向にある
D	測定不能

I 全体目標

(1) がん死亡率の減少

最終アウトカム指標	基準値	目標値	現状値（R8）	評価
年齢調整死亡率 （75歳未満） 人口10万対	男性183.96、 女性88.30 （全国平均 男性160.00、 女性93.56） （R3）	男性 全国平均より減少 女性 R3より減少	男性160.41、 女性87.92 （全国平均 男性142.79、 女性90.36） （R7速報値）	男性 A 女性 A
がん種別5年生存率	67.5% （院内がん登録2014- 2015年症例）	向上	67.5% （院内がん登録2014- 2015年症例）	D

進捗状況・評価

- 年齢調整死亡率は、男性が基準値の「183.96」に比べて、「160.41」と約12.8%減少した。
- 男性は現状値が全国平均を上回っており、目標達成には至っていないものの、全国平均との差は23.96ポイントから17.62ポイントへと縮小しており、改善傾向にある。
- 女性は、基準値の「88.30」に比べて、「87.92」と約0.4ポイント減少した。
- 女性は現状値が全国平均を2.44ポイント下回っており、基準値からも減少し、目標を達成している。
- 今後も引き続き、がんの早期発見・早期治療に繋げる検診受診率向上対策の推進、医療提供体制の充実に取り組んでいく必要がある。

(2) がん罹患率の減少

最終アウトカム指標	基準値	目標値	現状値（R8）	評価
年齢調整罹患率	387.2（2019年値）	減少	375.6（2023年値）	A

進捗状況・評価

- 年齢調整罹患率は、基準値の「387.2」に比べて、「375.6」と約3.2%減少しており、改善傾向にあり、目標に向けて順調に推移している。
- 引き続き、禁煙支援やHPVワクチンの定期予防接種実施率向上や肝炎医療・支援を推進していく必要がある。

(3) がんになっても安心して暮らすことができる

最終アウトカム指標	基準値	目標値	現状値（R8）	評価
受けた治療等に満足している患者の割合	72.2%（R5）	向上	67.2%（R7）	C

進捗状況・評価

- 「受けた治療等に満足している患者の割合」は、基準値から5.0ポイント低下しており、目標である「向上」に対して後退傾向である。
- 患者や家族の多様なニーズを踏まえた相談支援のさらなる充実や、多職種・関係機関との連携強化を図り、がんになっても安心して暮らすことができる環境の整備につなげていく必要がある。

Ⅱ 個別目標

1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
(1) がんの1次予防

中間アウトカム指標	基準値（R4）	目標値	現状値（R8）	評価
20歳以上の喫煙率	男性 27.0% 女性 6.4%	男性 20%以下 女性 5%以下	男性 27.0% 女性 6.4% (R4)	D
受動喫煙の機会を有する人の割合	家庭(ほぼ毎日) 5.0% 職場(月1回以上) 19.0% 飲食店(月1回以上) 9.6%	家庭(ほぼ毎日) 3%以下 職場(月1回以上) 10%以下 飲食店(月1回以上) 4.8%以下	家庭(ほぼ毎日) 5.0% 職場(月1回以上) 19.0% 飲食店(月1回以上) 9.6% (R4)	D
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人	男性 16.8% 女性 9.6%	男性 15%以下 女性 7%以下	男性 16.8% 女性 9.6% (R4)	D
運動習慣者の割合	20～64歳 男性 25.5% 女性 21.8% 65歳以上 男性 58.2% 女性 36.7%	20～64歳 男性30%以上 女性30%以上 65歳以上 男性62%以上 女性50%以上	20～64歳 男性 25.5% 女性 21.8% 65歳以上 男性 58.2% 女性 36.7% (R4)	D
野菜摂取量 (1日当たり)	274g	350g以上	274g (R4)	D
肝炎検査の受検者数	B型 1,477人 C型 1,471人	増加	B型 1,415人 C型 1,397人 (R6)	C
肝炎陽性者の精密検査受診率	77.8%	90%以上	100.0% (R7)	A
HPVワクチン接種率	29.9% (R3)	全国平均を超える	52.4% (R7)	A

アウトプット指標	現状値（R8）
県内禁煙外来受診者数	345名 (R7)
「健康づくりひとくちメモ」の放送回数	飲酒4回、運動4回、栄養9回
がん教育実施校数	69校 (予定)
肝炎治療費助成の受給者証交付件数	552件 (R7)
肝炎医療コーディネーター養成者数	515人 (R7年度末時点)
HPVワクチンの啓発資材配布数	324校 17606部

主な取組

〈禁煙希望者に禁煙してもらう〉

- ・赤ちゃん会（高知新聞企業主催）にて、啓発チラシをお土産袋に入れて配布
- ・世界禁煙デー・禁煙週間にポスター掲示、高知城ライトアップによる啓発
- ・とさ禁煙サポーター養成講座及びとさ禁煙サポーターフォローアップ研修会の開催（養成講座：R8.9.26開催、フォローアップ：開催時期未定）
- ・健康づくりひとくちメモでの啓発 禁煙・受動喫煙防止について年間各5回放送
- ・たばこ対策専門部会の開催（R8.12.1開催予定）
- ・禁煙・受動喫煙防止啓発リーフレット等を用いての啓発

〈生活習慣の改善に向けた取組を進める〉

- ・「高知家健康チャレンジ」により、「朝食摂取」が健康習慣の入り口として全世代において取り組みやすいものであることの普及啓発と、「減塩、野菜摂取、運動、減酒」といった取り組みの啓発も実施する
- ・高知家健康パスポートにおけるウォーキングイベント等の開催（3,755名参加 1回開催：8月末時点）
- ・健康づくりひとくちメモでの啓発：飲酒4回、運動4回、栄養9回（予定）

〈感染に起因するがん対策を進める〉

- ・肝炎治療の助成（受給者証交付数 R7年度末時点）
インターフェロンフリー治療26件、核酸アナログ製剤治療552件
- ・肝炎医療コーディネーターの養成
新規養成研修会の開催 23名養成（9/17）
フォローアップ研修会の開催 54名出席（11/26）
- ・HPVワクチン啓発資材配布（小学校（6年生）・中学校・高等学校（1年生）
定期接種対象者向けチラシを県内公立・私立学校等に配布（324校17,606枚）

〈学校教育におけるがん教育を進める〉

- ・高知県がん教育推進協議会の開催 R6～R7：1回/年
- ・がん教育外部講師派遣事業の実施 R6：62校、R7：60校、R8：69校（予定）
- ・子どもから保護者へのメッセージカードチラシの配布（小学校（5・6年生）・中学校）

進捗状況・前期（R6～R8）評価

〈禁煙希望者に禁煙してもらう〉

- ・令和8年度は、啓発チラシをお土産袋に入れて配布した。
喫煙者やその家族に対し、子どもに与える健康への影響や受動喫煙による健康被害等について啓発できた。
- ・世界禁煙デー・禁煙週間にポスター掲示、高知城ライトアップを行い、県民の禁煙意識に繋がる取組を実施できた。
- ・とさ禁煙サポーター養成講座を開講し、喫煙者に対して禁煙のきっかけづくりや情報提供の助言・支援を行えるサポーターを養成した。（44名：令和8年6月26日時点）
また、禁煙サポーターフォローアップ研修会を開催し、サポーターのスキルアップに繋がった。
- ・健康づくりひとくちメモにて禁煙・受動喫煙防止について年間各5回放送し、県民に広く啓発できた。
- ・たばこ対策専門部会を開催（年1回開催）し、本県のたばこ対策の推進に向けて、協議を行った。
- ・禁煙・受動喫煙防止啓発リーフレットを作成し、市町村健診や事業所訪問等でリーフレットを用いた知識の普及を図ることができた。

進捗状況・前期（R6～R8）評価

〈生活習慣の改善に向けた取組を進める〉

- ・「高知家健康チャレンジ」において、広告媒体等による総合的な啓発や、量販店や市町村等で協働でプロモーションを行ったことで、生活習慣病の改善につながる意識醸成を図ることができた。
- ・「高知家健康パスポート」のアプリ内イベントを定期的に開催することで、県民の保健行動の定着化を図ることができた。
- ・健康づくりひとくちメモでの啓発：マスメディアを活用して啓発することにより、県民の知識の普及を図ることができた。

〈感染に起因するがん対策を進める〉

- ・小中学校へのHPVワクチン啓発資材配布やHPVワクチンについてSNS広告の発信を行った。
- ・HPVワクチンの接種率について、R6年度はキャッチアップ接種の強力なキャンペーンにより、82.7%と大幅に向上したものの、キャンペーンの終了によりR7年度は52.4%と、その後の伸びが継続せず、接種率は減少傾向にある。また、R7年度の全国平均接種率は57.0%となっており、高知県は全国平均を下回っている。
- ・肝炎患者等が適切な肝炎医療や支援を行う肝炎医療コーディネーター養成講座を開講し、コーディネーターの養成を行った（23名：令和7年度）
また、コーディネーターフォローアップ研修を実施し、コーディネーターの知識の更新に繋がった。
令和7年度から肝臓週間に合わせて「高知家健康パスポート」アプリで肝炎検査のお知らせの実施、保健所での検査受験者にアプリのポイント付与を行い、肝炎ウイルス検査受検の啓発を行った。

〈学校教育におけるがん教育を進める〉

- ・小中学校との連携により、子どもががんに関する知識を深めるように活動できた。

目標を見据えた今後の対応

〈禁煙希望者に禁煙してもらう〉

- ・喫煙者に対して禁煙のきっかけづくりや情報提供等を行うとともに、喫煙をやめるための支援を引き続き推進していく。
- ・喫煙が及ぼす健康への影響等について広く啓発するとともに、改正健康増進法に基づく、事業所等の受動喫煙防止対策強化についても継続した周知を行う。

〈生活習慣の改善に向けた取組を進める〉

- ・「高知家健康チャレンジ」において、さらなる意識の向上・行動変容につなげるため、民間企業等と協働で取り組むプロモーションにより、食生活改善等に関する啓発を継続する。
- ・県民のより良い保健行動の定着に向け、「高知家健康パスポート」の利活用の推進を行う。
- ・マスメディア等を活用したより良い生活習慣に関する啓発を継続する。

〈感染に起因するがん対策を進める〉

- ・生徒さんに対してHPVワクチンの接種の大切さを認識してもらうため、今後も資材の配付・SNS配信を続けていく。
- ・接種対象者が学生であるため、学校等を通じた啓発を継続して行う必要がある。
- ・安全性に対する不安が根強く、ワクチンに対する多様な受け止めや疑問が見受けられることから、副反応とワクチンの効果に係る科学的根拠に基づく知識について、学校関係者や保護者が正しい理解を得られるよう、情報提供を実施していく必要がある。
- ・肝炎患者等が適切な肝炎医療や支援を受けられるよう、肝炎治療医療機関に1名以上コーディネーターを配置に向け、コーディネーターの養成を行っていく。

〈学校教育におけるがん教育を進める〉

- ・がんに対する正しい知識を理解し、がん患者に対する正しい認識及び健康や命の大切さについて理解が深まるよう、がん教育外部講師派遣事業を継続していく。
- ・生徒と保護者に対してがん検診の大切さを認識してもらうため、子どもから保護者等へのメッセージカードチラシ事業を継続していく。

Ⅱ 個別目標

1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
(2) がんの2次予防(がん検診)

中間アウトカム指標	基準値 (R 4)	目標値	現状値 (R 8)	評価
がん検診の受診率 (40～50歳代)	肺 : 59.2% 胃 : 41.6% 大腸 : 46.6% 子宮頸 : 47.4% 乳 : 51.7%	60%以上	肺 : 61.4% 胃 : 40.1% 大腸 : 49.1% 子宮頸 : 50.1% 乳 : 52.4% (R 6)	A (肺 : A 胃 : B 大腸 : A 子宮頸 : A 乳 : A)
がん検診の精密検査受 診率 (地域)	肺 : 90.4% 胃 : 91.7% 大腸 : 84.6% 子宮頸 : 80.0% 乳 : 96.6% (R 2)	90%以上	肺 : 90.4% 胃 : 93.4% 大腸 : 84.0% 子宮頸 : 77.6% 乳 : 95.3% (R 5)	B (肺 : A 胃 : A 大腸 : B 子宮頸 : B 乳 : B)
がん検診の精密検査受 診率 (地域・職域)	肺 : 71.4% 胃 : 62.0% 大腸 : 56.6% 子宮頸 : 57.7% 乳 : 89.9%	90%以上	肺 : 77.7% 胃 : 61.8% 大腸 : 58.8% 子宮頸 : 62.1% 乳 : 93.1% (R 6)	A (肺 : A 胃 : B 大腸 : A 子宮頸 : A 乳 : A)
市町村チェックリスト実施 率	肺 : 90.9% 胃 : 90.5% 大腸 : 89.4% 子宮頸 : 90.3% 乳 : 90.9%	向上	肺 : 96.0% 胃 : 96.0% 大腸 : 95.8% 子宮頸 : 96.1% 乳 : 96.3% (R 7)	A (肺 : A 胃 : A 大腸 : A 子宮頸 : A 乳 : A)
がん発見率	肺 : 0.04% 胃 : 0.05% 大腸 : 0.11% 子宮頸 : 0.02% 乳 : 0.29%	向上	肺 : 0.04% 胃 : 0.06% 大腸 : 0.12% 子宮頸 : 0.02% 乳 : 0.35% (R 6)	B (肺 : B 胃 : B 大腸 : B 子宮頸 : B 乳 : B)
陽性反応的中度	肺 : 3.11% 胃 : 2.02% 大腸 : 2.76% 子宮頸 : 1.9% 乳 : 7.1%	向上	肺 : 3.57% 胃 : 2.9% 大腸 : 2.72% 子宮頸 : 1.6% 乳 : 9.2% (R 6)	B (肺 : A 胃 : B 大腸 : B 子宮頸 : B 乳 : A)

アウトプット指標	現状値 (R 8)
受診勧奨実施市町村数	29市町村及び1広域連合
がん検診啓発事業実施数	5
精密検査未受診者への受診勧奨 実施市町村数	29市町村及び1広域連合
精密検査実施医療機関公表数	胃 : 44医療機関、 大腸 : 37医療機関、 肺 : 13医療機関、 子宮頸 : 14医療機関、 乳 : 12医療機関 (R 8.9月時点)
がん予防・早期発見推進事業にお ける研修会実施件数	マンモ : 1回 (R7) 胃内視鏡 : 1回 (R7) 肺 : 1回 (R7)

主な取組

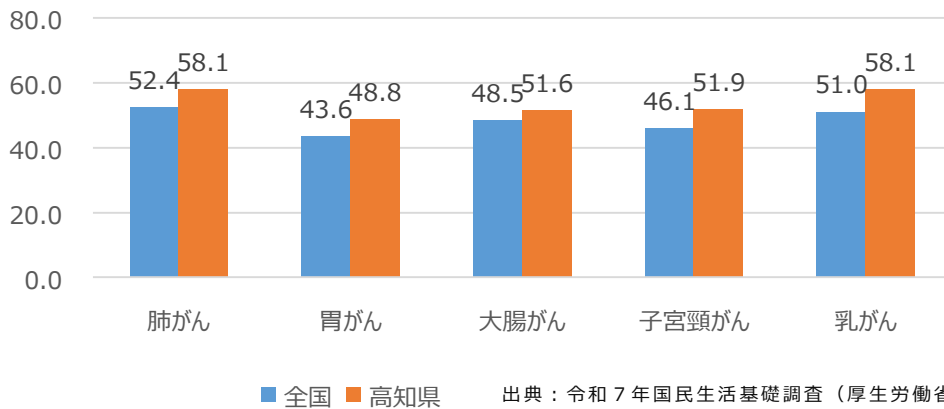
〈がん検診の受診を推進する〉

- ・がん検診受診促進事業（市町村補助金）27市町村及び広域連合を支援
検診の個別通知・再勧奨・精密検査未受診者への受診勧奨など
- ・がんポータルサイト「こうちがんサポネット」の周知
- ・居住地以外の市町村でも受診可能な広域検診の実施 夜間：3日 土日：5日
- ・より身近な場所で受診機会を設けるコンビニ検診※の実施
3日（4/7香南市、10/8高知市、11/12須崎市）
- ・テレビCM 150本（9月から1月）、WEB・SNS広告（8月-1月）、新聞広告掲載
※県と包括協定を締結しているコンビニエンスストアの駐車場を活用した市町村検診

〈がん検診の精度向上を進める〉

- ・精密検査未受診者への受診勧奨実施
- ・精密検査実施医療機関を公表
- ・高知県健康診査管理指導協議会及び部会（肺、胃・大腸、子宮、乳）の開催
- ・子宮頸がん検診ワーキンググループの開催

がん検診受診率の全国との比較（40～69歳・子宮頸がんは20～69歳）



進捗状況・前期（R6～R8）評価

〈がん検診の受診を推進する〉

- ・がん検診の受診率（40～50歳代）については、基準値と比較して改善傾向にあり、肺がんについては、目標も達成している。

〈がん検診の精度向上を進める〉

- ・がん検診の精密検査受診率は、地域においては、基準値と比較して向上または基準値と同程度であり、改善がみられる。
- ・一方で職域もあわせた受診率になると、受診率が低下してしまい、がん種によっては、低下傾向にあるものもある。

目標を見据えた今後の対応

〈がん検診の受診を推進する〉

- ・がん検診の受診率においては、すべてのがん種での目標達成には至っていないものの、向上傾向にあり、各種啓発・支援を引き続き実施していく。

〈がん検診の精度向上を進める〉

- ・職域検診での精密検査受診率が低いことから、職域にかかる取り組みが課題となり、職域に向けた取り組みを推進していく。
- ・精密検査受診率が低いため、引き続き、精密検査の受診率を向上させるための受診勧奨の働きかけが必要。

Ⅱ 個別目標

2 患者本位で持続可能ながん医療の提供

中間アウトカム指標	基準値（R4）	目標値	現状値（R8）	評価
手術療法実施件数	3,464件 (R3)	増加	3,686件 (R6)	A
放射線療法実施件数	1,105件 (R3)	増加	1,198件 (R6)	A
薬物療法（外来化学療法）実施件数	21,947件 (R3)	増加	—	D
緩和ケアチームのある医療機関数	11機関 (R5)	増加	12機関 (R8)	A
緩和ケアの実施件数	1,386人 (R2年9月)	増加	2,151人 (R5)	A

アウトプット指標	現状値（R8）	アウトプット指標	現状値（R8）
がん診療連携拠点病院機能強化事業費補助金	補助先：3 機関 (高知医療センター、幡多けん みん病院、あき総合病院)	緩和ケア研修修了者数	1,219人 (R8.9月1日時点)
手術療法実施医療機関数	37機関 (安芸：2、中央：27 高幡：2、幡多：6)	がん患者への訪問看護を 行っている施設数	22機関 (中央：16、高幡：3、 幡多：3)
放射線療法実施医療機関数	6 機関 (中央：5、幡多：1)	がん患者への訪問診療を 行っている施設数	39機関 (安芸：3、中央：27 高幡：4、幡多：5)
薬物療法（外来化学療法） 実施医療機関数	61機関 (安芸：4、中央：47 高幡：5、幡多：5)	妊よう性温存治療費等助 成件数	4 件
多職種によるカンファレンスを月 1 回以上開催するがん診療連 携拠点病院等	4 機関（R7）	小児慢性特定疾病対策事 業での悪性新生物の認定 件数	31件 (R7.10月時点)

主な取組

〈拠点病院等の機能充実が図られる〉

- ・拠点病院等に対して、がん診療連携拠点病院等機能強化事業費補助金の交付
- ・がん診療に携わる医療従事者に対する研修等を通じた人材育成

〈標準的な治療（手術療法・放射線療法・薬物療法）が、質が高く安全に実施されている〉

- ・手術療法と薬物療法はすべての二次保健医療圏で提供体制を確保
- ・放射線療法は中央及び幡多医療圏に集約

〈チーム医療体制が整備され、医療従事者間の連携が強化されている〉

- ・カンサーボードの開催による多職種での治療方針の検討
- ・専門チームによる定期的なミーティングを通じた各患者に必要な治療・ケアの検討

〈診断時からの適切な緩和ケアが受けられる〉

- ・がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会等の開催
- ・全ての拠点病院等において、専門的な緩和ケアを実施するための緩和ケアチームを設置

〈在宅療養支援を進める〉

- ・訪問看護師の確保・育成
- ・ACPに関する研修会や多職種による事例検討会等の開催
- ・在宅医療に携わる薬剤師の養成・スキルアップ

進捗状況・前期（R6～R8）評価

- ・拠点病院等の機能強化や人材育成、医療機関間の連携を進めるとともに、がん医療提供体制及び緩和ケア・在宅療養支援体制の整備を進めた。
- ・中間アウトカム指標については、手術療法、放射線療法の実施件数が増加しているほか、緩和ケア実施件数や緩和ケアチームを有する医療機関数も増加しており、概ね改善傾向にある。
- ・一方、薬物療法の実施件数については、基準値と現状値の算定方法等の違いにより、単純比較が困難であることから、指標の見直しを行う。

○中間アウトカム指標見直し案（薬物療法（外来化学療法）実施件数）

	基準値 (R4)	目標値	現状値 (R8)	評価	出典
旧 (現行)	21,947件 (R3)	増加	—	D	外来機能報告
新	23,926件 (R5)	増加	24,119件 (R6)	A	NDBオープンデータ

目標を見据えた今後の対応

〈拠点病院等の機能充実が図られる〉

- ・拠点病院等の機能強化や人材育成、医療機関間の連携を引き続きの連携を推進する。

〈標準的な治療（手術療法・放射線療法・薬物療法）が、質が高く安全に実施されている〉

- ・2040年を見据え、がん医療の需要の変化などを踏まえ、がん医療提供体制の均てん化・集約化や医療機関間の役割分担・連携のあり方を高知がん診療連携協議会において議論していく。

〈チーム医療体制が整備され、医療従事者間の連携が強化されている〉

- ・多職種による連携を強化するとともに、チーム医療体制の整備に引き続き取り組む。

〈診断時からの適切な緩和ケアが受けられる〉

- ・引き続き、がん医療に携わるすべての医療従事者が基本的な緩和ケアを実施し、その知識や技能を維持・向上できるよう取り組みを進める。
- ・また、緩和ケアチーム等の専門的な緩和ケアにつなげる体制や多職種連携を強化し、診断時から適切な緩和ケアを受けられる体制の充実を図る。

〈在宅療養支援を進める〉

- ・訪問看護師等の在宅療養を支える人材の育成やACPに関する研修や事例検討等を通じて、多職種連携を強化し、在宅療養支援体制の充実を図る。

Ⅱ 個別目標

3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

中間アウトカム指標	基準値（R4）	目標値	現状値（R8）	評価
がん相談支援センター等の認知度	36.6% (R5)	向上	52.6% (R7)	A
がん相談支援センター等の相談窓口の利用者で役に立ったがん患者の割合	89.3% (R5)	向上	73.6% (R7)	C

アウトプット指標	現状値（R8）
拠点病院等の相談窓口における相談件数	高知大学医学部附属病院 841件(面談443件 電話391件 その他7件) 高知医療センター 1,204件(面談850件 電話353件 その他1件) 幡多けんみん病院 491件(面談388件 電話96件 その他7件) あき総合病院 535件(面談453件 電話82件 その他0件) 高知赤十字病院 401件(面談340件 電話61件 その他0件) 国立病院機構高知病院 470件(面談409件 電話60件 その他1件) がん相談センターこうち 305件(面談135件 電話162件 その他8件) 7機関計 4,247件 (R7)
がんサロンの開催回数	拠点病院等（予定件数）：41件、がん相談センターこうち：82件 (R7)
関係機関と連携した事業所への情報提供数	治療と就業の両立支援事例集を作成し、事業所へ配布予定

主な取組

- 〈がんの相談支援を受けることができ、自分にあった正しい情報が得られる〉
- ・資材やがんポータルサイト等を活用したがん相談支援センター及びがん相談センターこうちの周知
 - ・がんピア・サポーターの養成及び派遣（養成数：8名、派遣回数：4回）（R8.9月末時点）
- 〈治療と仕事の両立支援を進める〉
- ・ハローワークとがん診療連携拠点病院等の連携による出張相談（就労支援ナビゲーター1名）
 - ・がんポータルサイトによる両立支援に関する情報や相談窓口等の周知
 - ・アピアランスケア支援事業実施市町村19市町村（R8.9月末時点）

進捗状況・前期（R6～R8）評価

- ・がん相談支援センター等の認知度は改善傾向にあり、相談窓口の周知等の取組による一定の効果が見えてくる。
- ・一方、相談窓口の利用者で「役に立った」と回答した割合は基準値を下回っており、後退傾向にあることから、多様なニーズに応じた相談支援のさらなる充実が必要である。

目標を見据えた今後の対応

- 〈がんの相談支援を受けることができ、自分にあった正しい情報が得られる〉
- ・資材等を活用し、がん相談支援センター等の周知を継続する。
 - ・がんピア・サポーターの養成・派遣等を通じ、ピア・サポート活動やがんサロン等の患者・家族が交流できる場の充実を図る。
- 〈治療と仕事の両立支援を進める〉
- ・引き続き、関係機関と拠点病院等が連携して行う出張相談や、ポータルサイト等を活用した患者・事業所への情報提供等により、就労支援の充実を図る。

Ⅱ 個別目標

4 これを支える基盤の整理

中間アウトカム指標	基準値（R 4）	目標値	現状値（R 8）	評価
M I 比	0.39（2019年値）	0.5以下	0.40（2021年値）	C
D C O	1.1%（2019年値）	10%以下	1.6%（2021年値）	C

※MI比：同一時期のがんの死亡数と罹患数との比（死亡/罹患比）。もし死亡数が罹患数より多ければ、その部位のがん罹患が著しい速さで減少している場合を除いては、登録が完全でないことを示す。

※DCO：死亡票からしか把握されていない症例のこと。DCO症例は正確度（妥当性）が低いと仮定されるので、がん登録データの妥当性を評価する指標の一つとして用いられる。

アウトプット指標	現状値（R 8）
全国がん登録におけるがん登録届出対象医療機関数	158機関 （指定診療所数（歯科診療含む）41機関）

主な取組

- 〈がん登録届出体制の整備を推進する〉
- ・全国がん登録の利用件数1件(R 8. 9月末時点)
- ・がん登録推進事業 委託先：国立大学法人高知大学
- ・遡り調査 2024年データについて実施
- ・冊子「高知県のがん登録2022、2023年集計」報告書作成予定
- ・院内がん登録研修会の開催

進捗状況・前期（R 6～R 8）評価

- ・MI比、DCOともに基準値から上昇しているものの、目標値を達成している。

目標を見据えた今後の対応

- 〈がん登録届出体制の整備を推進する〉
- ・全国がん登録については、がん登録推進事業を着実に実行し、適切な届出及び登録データの活用を進める。
- ・院内がん登録については、研修会等を通じて、拠点病院等における適切な院内がん登録を推進する。